

Social 社会

社会やステークホルダーの皆様からの期待と役割を理解し、
安心・安全で、すべての人が自分らしい毎日を歩める社会を目指して、
様々な取り組みを推進しています。
価値創造に取り組む従業員やパートナーの声と共に
活動をご紹介します。

詳しくは、Webサイトをご覧ください

☞ [サステナビリティ > 社会](http://www.bridgestone.co.jp/csr/social/index.html) www.bridgestone.co.jp/csr/social/index.html

労働安全・衛生

私たちは、「安全はすべてに優先する」というミッションを掲げています。安全は私たちブリヂストンの企業経営の基盤です。安全な職場で安心して働くために、バリューチェーン全体を活動範囲として、一人ひとりが安全活動を推進しています。「安全宣言」は、ブリヂストングループの従業員のみならず、協力会社、当社グループ施設へのご訪問者の方も対象としています。グローバルに事業展開する当社グループの全職場における、従業員や協力会社、当社グループ施設へのご訪問者の方を意識した掲示に加え、インストラクター制度などを用いて全従業員への継続的浸透を図っています。



お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からも期待されており、高い安全基準の適用により当社グループの従業員や協力会社の労働安全・衛生を確保する上で、このミッションは一層重要になっています。当社グループは、高齢化に伴う人間工学的リスクの増加、規制の変更、機械や設備の老朽化、そして新技術の現場への導入にも対応するように安全基準を継続的に更新すると共に、当社グループが取り組みを開始する新規事業においても安全に対する意識を真摯に育んでいきます。



Andrea Colussi
Director
Environment,
Health & Safety
Bridgestone EMIA

基盤領域安全グループは、「持続可能な事業展開」というコミットメントの一環として、すべての事業領域で「Safety excellence」を目指しています。そのために、私たちは世界の変化とビジネスの進化に対応し、どんな逆境にあっても健康・安全リスクを評価し軽減しながら、より強い安全文化を構築することを目指しています。

私たちはグローバルなマネジメントシステムを導入し、従業員の安全行動力を強化し、新技術を活用してデジタル化を進め、効果的、効率的にPDCAサイクルを回しています。私たちの「安全宣言」と「Bridgestone E8 Commitment」は、全社員が支える強固な安全文化の構築に向けて、積極的な役割を果たすよう、全社員を鼓舞する指針となっています。私たちはチームメイトの安全を守り、すべてのステークホルダーの安全文化の強化に貢献することを目的としています。

》「ブリヂストン共通安全規定項目」に精通した インストラクター養成

当社グループは、共通安全規定項目に掲げる活動を全ての事業所で実践しています。この項目は基本的な安全活動として、「3S(整理・整頓・清掃)」「KY(危険予知)」「RA(リスクアセスメント)」「安全ルール」で構成されており、全事業所で全従業員が日々の活動として実践しています。2022年には全従業員140,000人(当時)を対象に安全教育を実施し、「ブリチス

トン共通安全規定項目」に掲げる活動を推進するインストラクターを83人養成しました。具体的な実施事項を定めた「活動標準」の発行とこれに沿った活動の推進だけでなく、各事業所に「ブリヂストン共通安全規定項目」に精通したインストラクターを配置することで、全事業所が統一された内容で安全活動を展開・実行できる体制を整備しています。

》 2022年度の安全・衛生KPIのモニタリング

当社グループは、SBU、グローバルビジネスサポート（GBS）と共に、定期的に安全会議を開催し、活発に意見交換しています。また、その他グローバル委員会と協議しながら活動を推進し、より連携を深めています。2022年より、以下の4つのKPIを設定し、結果をモニタリングしています。

1. 休業度数率（LTIFR）*1、重傷度数率（SIR）*2、職業性疾病度数率（OIFR）*3

2023年目標	LTIFR	SIR	OIFR
従業員および派遣社員	2.6 (2.74)	0.05 (0.08)	0.33 (0.68)
協力会社	1.7 (0.62)	0.15 (0.06)	—

括弧内は2022年末時点のデータ

当社は情報の正確性と透明性の確保に努めており、上記太字のデータは、第三者機関であるソコテック・サーティファイケーション・ジャパン株式会社による保証を受けています。

*1 LTIFR = (死傷者数 / 延実労働時間数) × 1,000,000

*2 SIR = (重傷者数 / 延実労働時間数) × 1,000,000

*3 OIFR = (職業性疾病件数 / 総労働時間) × 1,000,000

2. リスクアセスメント実施率

当社グループは、新たな作業やプロジェクト、設備に関する包括的な安全性を確保するため、目標値を設定し、リスクアセスメントを実施しています。2019年に導入したKPIでは、各年の評価計画に対するリスクアセスメント実施率を測定しています。グループとして毎年アセスメントを100%実施することを目標とし、2022年の実績は計画対比97%（拠点実施率）*4となりました（2022年12月31日時点）。

*4 5,560の設備を対象とするリスク評価において、5,420の設備を評価

3. 安全成熟度評価実施率

当社グループは、グローバルに共通する課題の特定や、安全対策のPDCAサイクルの実効性評価、継続的改善に向けた取り組みの実施状況の確認のため、安全成熟度評価を実施しました。安全成熟度評価は、2022年に生産拠点を対象に開始し、2024年までにすべての生産拠点で評価を完了することを目指しています。

4. 労働安全・衛生に関するグローバル安全標準の策定

現在、39の標準策定が完了し、展開・導入されました。当社グループは、これらのグローバル安全標準の展開状況をモニタリングしています。当社グループでは、ISO45001及び各国規格・規制に沿ったグローバル安全マネジメントシステムを構築し、衛生や防災を含むグローバル安全標準を策定しています。また、2023年3月時点で、全110工場のうち46%にあたる50の工場でISO45001認証を取得しています。

》 継続的改善に向けた取り組み

当社グループでは、職場をさらに安全にしていくために、2021年8月より、優先的にリスク低減すべき12種類の設備に対する安全対策を進めています。2022年は、設備に関する安全要件をグローバル設備安全規格に追加しました。また、スマートファクトリーを実現するため、機械・設備へのグローバル標準の適用やデジタル・センシング・AI制御を導入した新技術を積極的に採用するなど、スマートファクトリーの具現化を進め、サステナブルなソリューションカンパニーへの成長に向けて、モノづくりにおいても変革を加速していきます。

また、安全成熟度評価などの評価結果により、グローバルで最大限に活用できる強みや、安全文化を継続的に向上させるために取り組むべき課題が明らかになります。さらに、当社グループの各拠点では、安全意識の向上や安全な職場づくりのための知識醸成を目的に、各地域の法的要件や当社グループ独自の要件に基づいた安全教育を実施しています。